



川中だより

令和6年11月29日(金)発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第8号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

去る11月24日(日)に、新発田市民文化会館において新発田市社会福祉協議会が主催する新発田市「ふくしの集い」がありました。この催しは、日頃、社会福祉に貢献されている新発田市在住の方に感謝状や功労賞を授与したり、ボランティアなどに関わる講演を行ったりしています。この会で、昨年「命の授業」でお世話になったフリーアナウンサーの伊勢みずほさんが「もっと手をつなごう ～アフリカの野生動物から教わったこと～」と題し、基調講演をされていました。

実は、この基調講演の後に当校の3年生が会場の皆様の前で自分達が取り組んだ活動について発表を行いました。今年2月に当校の2年生(現3年)が能登半島地震の発生に伴い、生徒や保護者の皆様、そして地域の皆様に呼びかけをし、アルミ缶の回収や募金をした活動について、この「ふくしの集いで発表をしてほしい」という依頼が、1学期頃に社会福祉協議会の方からありました。当日は代表する4名の生徒が、200名を超える観衆の前で発表してきました。発表した概略は以下のとおりです。

- ・ 修学旅行の準備をしている中、能登半島地震が発生し、「自分達は呑気に旅行に行っているのだろうか」という声が生徒の間で出た。
- ・ 話し合った結果、地域にも呼び掛けてアルミ缶回収や募金をスタートした。
- ・ 気が付くと回収場所に、あふれんばかりのアルミ缶が届き、中には直接お金を届けてくれる地域の方もいらっしまった。
- ・ 「頑張ってアルミ缶のジュースやビールを飲むよ」と声をかけてくれる地域の方もいた(会場から大きな笑いが起こっていました)
- ・ 後で知ったのだが、中には中学生に協力しようと地区長さんが文章を作ってくれたり、地区をあげて集めたアルミ缶を、トラックに積んで届けてくださったりしたこともあった。
- ・ 実際に集まったお金を計算していた時に、良い意味でショックを受けた。それは「川東という地域に他人を思いやることができ、行動に移してくれる人がこんなにも多いのか」と実感したから。
- ・ この活動で得たお金を日本赤十字社に寄贈することができ、協力して下さった地域の方々にお礼の手紙を送った。
- ・ 「私達は中学生だから、遠く離れているから復興の力になれない」のではなく、自分達にできることを考え、具体的に行動することで誰かの役に立つことができると学んだ。

4名の生徒達は、大きな会場、そして大勢の観衆の前で、緊張の中、立派に発表してくれました。この原稿については、生徒を指導した職員はあまり手を入れず、生徒達が主体的に考えて作成してくれたものでした。練習の時から見ていた校長の私も、当日は一番素晴らしい発表の様子で感動しました。

発表を終え、生徒達と帰ろうとロビーや出入口に出たところ、中学生の姿を見つけた観衆の方々が次々と近くにいられて、「素晴らしい発表だった。地域を動かしたみんなはすごい。そして、それに協力する川東の地域も素晴らしい」と、また別の方は「みんなの話を聞いて、涙が出るくらい感動した。素晴らしい生徒達ですね」と。一緒にいた私も生徒だけでなく、川東という地域をたくさん褒めていただき、とても嬉しい気持ちになりました。

改めて、この活動に協力していただいた全ての皆様に感謝申し上げるとともに、日頃から中学校を支えてくださっている保護者、地域の皆様に感謝申し上げます。